

いわき農林水産ニュース

令和2年12月号(第190号) 発行 12月24日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



いちごの生食での消費量は日本が世界一とされています。12月からおいしいいちごが出荷されますので、ぜひご賞味ください!

目次

- ・【特集】いわき農林事務所・水産事務所・水産海洋研究センター 2020年の7大ニュース! p.1~〔各種取組の実績(11~12月分)〕……………p.5~〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目……………p.9
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果 p.9
- ・密漁に対する罰則強化について……………p.9
- ・ふくしま農業求人サイト「みつかる農しごと」が開設されました!……………p.10
- ・イベント情報……………p.10
- ・GAPコーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.12

特集

いわき農林事務所・水産事務所・水産海洋研究センター 2020年の7大ニュース!

2020年も残りわずかとなりました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大により農林水産業においても様々な影響がありましたが、その一方で明るい話題も多くあり、実りの多い1年になりました。年内最後の発行となる今月号では、いわき農林事務所各部・水産事務所・水産海洋研究センターが「今年1番!」と考えるニュースをご紹介します!

1. いわき市を代表する生産者・生産法人が見事各種顕彰事業で受賞!

農事組合法人大野水耕生産組合の大和田正幸氏が農事功績者表彰の緑白綬有功章(令和2年11月)、あかい菜園株式会社が第61回福島県農業賞の復興・創生特別賞(令和2年9月)、いわき農業青年クラブ連絡協議会の中村彰宏氏が令和元年度福島県農村青年会議プロジェクト発表の部で最優秀賞(令和2年1月)をそれぞれ受賞されました。

受賞の理由として、大和田氏はトマト養液栽培の技術確立・生産振興やブランドトマト「サンシャインいわきトマト」の創出に貢献されたことなどが、あかい菜園株式会社は東日本大震災後の風評払拭、令和元年東日本台風からの早期復旧や地域住民の雇用確保の取組などが、中村氏は青年クラブの食育活動について、外部の協力を得ながら活動が広がった点、クラブ員の成長にもつながっている点などそれぞれにおいて高く評価されました。(農業振興普及部)



〔左から松崎農林水産部長、大和田正幸氏、根本所長〕



〔あかい菜園(株)の船生代表取締役(写真左)及び小島常務取締役(写真右)と内堀知事〕



〔いわき農業青年クラブ連絡協議会の中村氏(中央)と前会長折笠氏(左)及び現会長芳賀氏(右)〕

2. 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を実施中！

新型コロナウイルス感染症について、このところ感染者数が拡大傾向にあることは皆さまもご承知のとおりです。

当然のことですが、当所でも各種の予防対策を行っています。

各執務室の入り口にはアルコール消毒液を置いて入室前に手指を消毒できるようにしており、また打合せテーブルにアクリル板の衝立を置き会話に伴う飛沫感染の防止を図っています。



(打合せテーブルのアクリル板衝立)

感染症の収束について先行きが見通せない状況のなか、今後とも万全の予防対策を行ってまいります。

また、私生活では、年末年始にあたり長時間の会食などの3密を避け、適切に換気をするなど感染予防を心がけましょう！



(執務室前に設置した消毒液)

(総務部)

3. 地元いわきの高校生が大活躍！アイデア溢れるオリジナルレシピを開発！ 「第3回高校生レシピコンテスト」(2月)

当所では、平成29年度から継続して「第3回高校生レシピコンテスト」を開催し、いわき市産トマト、ネギ、きのこ、いわき市のブランド米「Iwaki Laiki」の4種類のテーマ食材を活用したオリジナルレシピを募集しました。

市内の高校9校から55作品の応募があり、書類審査を通過した5作品の調理・実食審査の結果、グランプリ作品を決定しました。

入賞した5作品のうち3作品が、2月から期間限定で市内の飲食店9店舗で提供されたほか、市内スーパーで試食会が行われ、多くの方に味わっていただき大好評を得ました。



(入賞者らの集合写真)



〔グランプリ作品「フレッシュトマトのなめらかミルクプリン」〕



(市内スーパーにおける試食会)

また、今年度は高校生レシピコンテストに代え、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、高校生と市内の飲食店等5店舗(以下、協力店とする。)がいわき市産トマト、ネギ、きのこ、「Iwaki Laiki」(米・米粉)をテーマ食材としたテイクアウト商品を共同開発する「高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発」事業を実施しています。

これまで、市内の高校8校から応募のあったオリジナルレシピ52作品について書類審査を行い、5組の高校生と協力店がマッチングし、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を行いながら、テイクアウト商品の共同開発を行っています。

開発商品は、来年2月に開催するお披露目イベントで発表し、さらに実食キャンペーン期間中、協力店等で5作品を提供しますので、皆さま発表まで楽しみにお待ちください！ (企画部)



(高校生たちが鋭意開発中です！)



4. 当所発注工事が県優良工事表彰を5年連続で受賞！（9月）

福島市において「福島県優良建設工事」の表彰式が行われ、当所発注の道路改良工事（受注者：株式会社鈴民建設）が受賞しました。この表彰は、建設技術の向上発展と工事の安全な施工の確保を目的に1967年度から始まったもので、今回の受賞では大規模な切土工事にICT建設機械を活用し正確な法面仕上げを行ったほか、土量管理アプリを併用し掘削土量把握を行う等、先進的かつ効果的な取組が評価されました。

当所として5年連続の受賞となりました！この間、ほ場整備工事や橋梁工事等様々な工種で受賞しており、受注者の皆さまの熱意に感謝申し上げます。当所としても、新技術の導入や安全な施工に向けて、引き続き受注者と一体となって推進してまいります。（総務部・農村整備部）



（株）鈴民建設の受賞



（道路改良工事の完了全景）

5. 田人中学校が令和2年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞！（10月）

林業関係表彰式において、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰の授与が行われました。この賞は、緑化活動の推進や緑化思想の普及啓発について、顕著な功績のあった個人または団体を緑化推進運動功労者として内閣総理大臣が表彰するものです。令和2年は3名の方及び10団体に授与されました。

いわき市立田人中学校はいわき市内で唯一学校林活動を行っている学校で、地域住民の協力のもと、生徒自ら継続的に学校林の手入れを行っています。学校林活動で生産した木材を利用した木製コースターの作成を通じ、木材の循環利用を学ぶとともに、宮崎県の小中学校や地元住民との交流を行っています。若い世代に少しでも林業に興味を持ってもらい、いわき市の林業の更なる活性化に期待します。（森林林業部）



（田人中学校の皆さん）



（学校林活動の様子）

6. 海産魚介類の出荷制限 全て解除！

～原発事故から9年を経て、新たなスタートラインへ～

令和2年2月25日にコモンカスベ（エイの仲間）の出荷制限指示が解除されました。平成31年2月に国からの出荷制限の対象となって以降、約1年間で採取した1,008検体の全てで基準値（100Bq/kg）を下回り、安全が確認されました。これにより最大43魚種44品目まで上った海産魚介類の出荷制限対象魚種は全てなくなりました。本県沿岸漁業の水揚量回復の一層の加速化が期待されます。



（コモンカスベ）

安全で美味しい「常磐もの」の魚介類を全国の消費者に味わっていただけるよう、漁業者の皆さまと連携しながら失った販路の回復に向けた取組をしっかりと進めてまいりますので、引き続き皆さまのご支援をお願いします。（水産事務所）

7. 調査指導船いわき丸が船舶気象観測通報に貢献した船舶として表彰！（6月）

水産海洋研究センターでは、調査指導船「いわき丸」を用いた海洋環境や水産資源に関する調査を実施しています。海洋環境に関する調査では、塩屋埼沖、富岡沖、鵜ノ尾埼沖の3定線において、水温や塩分を毎月1回観測し、得られた結果を漁業者をはじめとした関係者に情報提供しています。気象庁に対しても表層水温データを提供してきたことから、令和2年6月1日に気象庁長官より感謝状が送られました。今後とも海洋観測調査を継続し、関係者へ迅速に情報提供してまいります。



（調査指導船「いわき丸」）



（感謝状及び表彰盾）

（水産海洋研究センター）

今回取り上げたニュース以外にも各月号で様々な話題を発信してまいりました。来年も引き続き、農林漁業者の皆さまと共に、いわきの農林水産業の発展のために取り組んでまいります。

新年が皆さまにとって良い年となりますよう、心から祈念いたします。



いちご土壤病害対策セミナーを開催

〔12月1日(火)〕

管内のいちご生産者を対象に、いちご土壤病害対策セミナーを JA 福島さくら夏井支店において開催しました。

管内のいちご生産では例年、土壤病害である炭疽病による株枯れ被害や苗不足が問題となっています。今回のセミナーでは、県農業総合センターの大竹副主任研究員より、いちご土壤病害の発生生態と対策についての講演の後、当部より、炭疽病対策として底面給水育苗の事例を紹介しました。また、JA 全農福島とバイエルクロップサイエンス(株)からは、病害虫防除指針と新規採用農薬の説明をいただきました。22名の参加者は、対策技術を学ぼうと熱心に耳を傾け、積極的に質問をしていました。



〔県農業総合センター大竹副主任研究員による講演〕

当部では、今後もいちごの単収向上、産地拡大に向けて取り組んでまいります。

(農業振興普及部)

伐木作業時における労働災害防止のための集団指導会

〔12月3日(木)〕

林業労働災害ゼロを目指して、厚生労働省、林野庁及び林材業労災防止協会が連携して主催する「伐木作業時における労働災害防止のための集団指導会」が郡山市のビッグパレットふくしまにおいて開催されました。

いわき地方からは3事業者4名が参加し、改正労働安全衛生規則やチェーンソーの安全に関するガイドラインの重要点等について説明を受けました。

令和3年度以降は、森林環境譲与税を活用した新たな森林経営管理制度が本格始動し、森林整備量が増加することが予想されます。



(集団指導会の様子)

林業事業者の皆さまにおかれましては、労災防止活動のより一層の強化をよろしく願いいたします。

(森林林業部)

いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催 [12月3日(木)]

県いわき合同庁舎において、市内の事業者を対象に地域産業6次化に関する講演会及び個別相談会を実施しました。

講演会には市内の事業者など30名が参加し、株式会社いわきユナイト代表取締役の植松謙氏を講師に迎え、「地域産業6次化の成功事例や失敗事例」、「コロナ禍における商品開発の考え方」を紹介していただきました。



(植松氏の講演に聞き入る参加者)

また、個別相談会ではふくしま地域産業6次化サポートセンターの御協力により、植松氏を始め、合同会社楽膳代表社員・デザイナーの大竹愛希氏、コンサルティングオフィス エル・アール・エー代表の菅野覚氏を相談員に迎え、販路拡大やパッケージデザイン、マーケティングに関するアドバイスを行いました。

参加者からは、「成功事例や失敗事例から学ぶことができ有意義だった」、「コロナ禍における変化をとらえた商品開発について参考になった」など、大好評のうちに終了しました。

当所では、今後も関係機関と連携しながら、事業者の皆さまの地域産業6次化の取組を支援してまいりますので、お気軽に当所までご相談ください。(企画部)

林内路網整備及び簡易架線集材に係る現地検討会を開催 [12月15日(火)]

林地保全に配慮した伐出技術を普及するため、壊れにくい森林作業道の開設方法と急傾斜地に対応した簡易架線集材をテーマに現地検討会を開催しました。

管内の林業関係者及び行政機関職員ら16名が参加し、いわきの里鬼ヶ城での座学では、「福島県森林作業道作設指針」に基づく「丈夫で簡易な道づくり」を学びました。



(「丸太組工」の設置実演)

県行造林地内(川前町芋島)での現地検討では、丸太組工による路肩の補強やスイングヤーダ(2胴ウインチ付きの重機)による集材作業の実演が行われ、参加者からは、架線集材による間伐を推進するには「列状間伐」に対する森林所有者の理解を得る必要がある等の意見が出されました。(森林林業部)

「いわき伝統野菜」を用いたイタリアン料理講習会 (11月16日(月))

いわき地区生活研究グループ連絡協議会が、会員の資質向上のため、好間町の大和田自然農園(p.11 地図参照)において料理講習会を開催しました。市内のイタリアンカフェパールのオーナーを講師に招き、今回のために考案いただいた「いわき伝統野菜」を活用したイタリアン料理について、会員11名が技術習得を図りました。



(カチャトーラの作り方を学ぶグループ員の皆さん)

いわき伝統野菜「とっくり芋」、「むすめきたか」、「小白井きゅうり」、「わさび大根」を使った5品の調理講習の後、うち1品「カチャトーラ(トマトソース煮込み)」の調理に挑戦しました。いわき伝統野菜生産者や生産振興担当の市役所職員も参加し、いわき伝統野菜の生産振興に向けて更なる意欲向上が図られました。

1月には、市内の親子10組を対象に親子料理教室の開催を計画しています。(農業振興普及部)

トピック1

いわきハタチ酒プロジェクト ～今期の酒造りに向けて～



二十歳の年の参加者が、酒米作りから酒造りまでを体験して、完成したお酒で二十歳を祝う「いわきハタチ酒プロジェクト」。

9月に収穫した酒米「夢の香り」は、今年も等級検査で「一等」の評価を受けた他、酒造米としての評価も他の地域に遜色無いものになっており、いわきでも良質の酒米が栽培できることが実証されています。



(鈴木副所長の説明に聞き入っています)

年明けには今期の酒造りが始まりますが、ボランティアスタッフ(1期～2期の参加者有志)と酒販店メンバーは、日本酒の知識を一層深めるため、県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターに見学に行きました。ここは知る人ぞ知る日本酒研究の最前線であり、福島日本酒躍進の原動力でもあります。

見学当日は驚くことに、「日本酒の神様」こと鈴木賢二副所長に対応していただきました。鈴木副所長の楽しい講義に始まり、最先端の研究施設の数々を説明していただき、参加メンバー一同、大いに感動と刺激を受けてパワーアップして帰ってきました。

今期の造りも良いお酒ができそうです。

★ PR ★

第2期のハタチ酒、夏を越えて味わいが深くなった「秋あがり」が販売中。寒さも本格的になったこの時期は「お燗」をお試ください。



(ハタチ酒「秋あがり」)

市内販売店：あわのや酒店・酒のいとう・酒のまるとみ・
さわきや・タイハイ酒店・丸伊酒店・矢吹酒店

(企画部)

福島県高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ対策いわき地方連絡会議
並びに福島県牛豚等特定家畜伝染病対策いわき地方連絡会議を開催

〔11月24日(火)〕

JA 福島さくらいわき地区本部 (p.11 地図参照) において、福島県高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ対策いわき地方連絡会議並びに福島県牛豚等特定家畜伝染病対策いわき地方連絡会議を開催しました。



(会議の様子)

高病原性鳥インフルエンザは、11月から他県の養鶏場や野鳥で相次いで発生が確認されており、豚熱(CSF)も、県内養豚場での発生はないものの、死亡・捕獲した野生イノシシからウイルスが検出されるなど、県内においても発生リスクは高まっています。

このため、今回の会議では関係機関、団体の担当職員が鳥インフルエンザや豚熱発生時に適切に対応できるよう、情報を共有するとともに連絡体制や初動防疫体制、防疫措置への対応等を確認しました。

さらに、今月22日には防疫演習を行うなど、今後管内での特定家畜伝染病の発生に備え万全の体制で対応してまいります。(詳細については次号でお知らせします。) (農業振興普及部)

第18回治右衛門の堰「あじさい祭り」

〔11月25日(水)〕

第18回治右衛門の堰「あじさい祭り」が開催され、いわき市立平第三小学校の4年生児童56名が参加しました。

あじさい祭りは、愛谷堰土地改良区が実施している「あじさいの花いっぱい運動」で作った「あじさいの散歩道」を広く啓蒙するために平成14年より開催しており、愛谷堰土地改良区が管理する施設をバスで巡りながら土地改良施設の役割や保全活動について学び、農業農村の持つ多面的機能に関して理解を深めるイベントです。

今年は愛谷頭首工、北白土除塵機、新川サイフォン、大越藤間第2排水機場を見学しました。

児童たちは、愛谷堰土地改良区や当所職員からの土地改良施設に関する説明に、メモを取りながら熱心に耳を傾けていました。(農村整備部)



(愛谷頭首工見学)



(北白土除塵機、新川サイフォン見学)



(大越藤間第2排水機場見学)



お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目

令和2年11月末日現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷が制限等されている品目は(表)のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。(企画部)

(表) 農林畜水産物の出荷制限等品目(令和2年11月末日現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る)*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

*わらび(栽培)は該当生産者15名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和2年11月分)

□ 農林畜産物の検査結果

令和2年11月の農林畜産物モニタリング検査では、18品目26検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムが基準値(100Bq/kg)を超えたものではありませんでした。内訳は(表)のとおりです。

(表) 放射線セシウムが基準値以下の品目と検体数

そば1、大豆1、ギンナン1、オリーブ(実)1、カキ3、ユズ2、スダチ1、カボス1、キウイフルーツ1、菌床しいたけ(施設)6、菌床なめこ(施設)1、原木しいたけ(施設)1、原木しいたけ(露地)1、原木くりたけ(施設)1、原木ひらたけ(露地)1、エリンギ(施設)1、牛肉1、原乳1

(企画部)

□ 海産魚介類の検査結果

令和2年11月の水産物モニタリング検査では、91検体の魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。(水産事務所)

密漁に対する罰則強化について

近年、全国的に悪質な密漁が問題となっていることから、漁業法が改正され、令和2年12月1日から密漁に対する罰則が大幅に強化されました。

国が指定する特定水産動植物(アワビ、ナマコ、シラスウナギ*)を、漁業の許可・漁業権等に基づかずに採捕した場合、「3年以下の懲役又は3,000万円以下の罰金」が科せられます。

また、漁業権侵害の罰則も、これまでの「20万円以下の罰金」から「100万円以下の罰金」に上げられています。

*シラスウナギについては、3年の猶予措置により令和5年12月1日から適用。

詳しくは、水産事務所(TEL 0246-24-6175)までお問い合わせ下さい。

(水産事務所)

ふくしま農業求人サイト「みつかる農しごと」が開設されました！

県内の農業専門求人サイト「みつかる農しごと」(<https://koransyo-nouka.jp/>)が、11月30日に開設されました。

このサイトは県が所有し、福島県農業協同組合中央会無料職業紹介所によって運営されており、正社員やパート、アルバイト等の求人情報が掲載されています。興味のある求人情報にエントリーすると、職業紹介事業者が面接等の日程調整を仲介し、生産者と面接を行い、双方が合意した場合採用となります。

まだ開設されたばかりなのでいわき市内の求人情報はありませんが(令和2年12月24日時点)、今後求人を希望する生産者に本サイトへの登録を推進し、求人情報の拡充に努めてまいります。

本サイトは24時間365日、いつでも求人情報を閲覧できます。利用料は無料※なので、興味がある方はぜひ本サイトにアクセスしてみてください。

※求人者が有料職業紹介事業者から求職者の斡旋を受けた場合は手数料が発生します。(農業振興普及部)



(ふくしま農業求人サイト「みつかる農しごと」HP トップページ)

イベント情報

第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン

- 日時：令和3年1月30日(土) 10:00~14:00(予定)
(配付物がなくなり次第終了)
- 場所：マルトSC草野店(p.11 地図参照)
- 主催：福島県いわき農林事務所



※キャンペーン当日はいわき産GAP認証いちごのプレゼントを予定しております。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用・手指の消毒やお客様同士の距離を十分保つなど皆さまのご協力をお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染症の影響等により中止となる場合があります。

(企画部)

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

令和2年12月～令和3年3月はGAPの推進強化月間です！

県では、令和2年12月～令和3年3月を本年度2回目の「GAP 推進強化月間」と位置づけ、GAP 認証取得の推進や GAP の理解促進に向けた取組を集中的に実施し、「ふくしま。GAP チャレンジ」最終年度のラストパートとするとともに、令和3年度以降の推進に向けた取組の契機としています。

現在、県全体で287件(9月末時点)、管内で30件(11月末時点)が認証されています。

当所では、令和2年度末までに40件の認証を目指しています。今後、認証取得を目指す方を把握しながら、取得に向けた手厚い支援を行うとともに、いわき市と連携した消費者に対する GAP ツアーの開催等、GAP の普及に向けた活動を強化してまいります。

GAP 認証取得に興味のある方は、農業振興普及部(TEL 0246-24-6162)にご相談ください。

(農業振興普及部)

トピック2

11月の漁模様

令和2年11月のいわき地区の水揚量は約104トンとなり、前年同月と比較して14%増でした。また、平均単価は571円/kgとなり、前年同月と比較してほぼ同じ水準でした。主な水揚魚種はヒラメ、マアナゴ、マガレイ、ムシガレイ、ヤナギムシガレイでした。11月から相馬双葉漁業協同組合所属の沖合底びき網漁船4隻が小名浜魚市場に毎週1回水揚げを行っており、これが水揚量の増大に一役買っています。

主要魚種であるヒラメは、底びき網漁業では前年同月より1.2トン減でしたが、小型船による刺し網や釣りでは前年同月より9トン増であり、底びき網漁船だけでなく、小型船も水揚量の増大に大きく貢献しています。



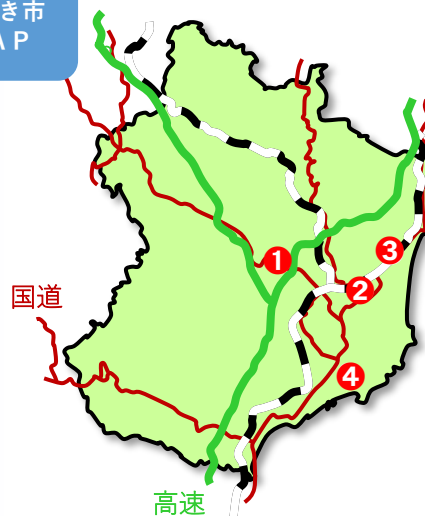
(水揚げされたヒラメ、カレイ類)

(水産事務所)

今月号に掲載した場所はここです！

- ① 大和田自然農園 (p.7)
好間町北好間字桜下30
- ② JA 福島さくらいわき地区本部 (p.8)
自由ヶ丘39-2
- ③ マルトSC 草野店 (p.10)
平下神谷仲田120
- ④ ラトリエ グランブルー (p.12)
小名浜君ヶ塚9-6

いわき市
MAP



こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

小名浜の洋菓子店「ラトリエ グランブルー」では、素材本来の風味と香りを活かした自然派ジェラートを販売しています。

素材の味わいを出すために、低温殺菌牛乳を使用したジェラートに果物や野菜の皮・果肉をそのまま絞った100%ピューレを加えています。抹茶やヨーグルトなど約10種類のフレーバーがあり、特に、いちごは田人観光いちご園、ブルーベリー・ラズベリーは小川町のユウキベリー農園の果物を使用するなど、地元の素材にもこだわっています。

香料・着色料は一切使用せず、砂糖も控えめで、素材そのものが持つ優しい香りと自然の色合い、甘みをそのままお楽しみいただけます。

素材のおいしさがつまったこだわりのジェラートをぜひご賞味ください！



自家製ジェラート各種 324円(税込)
左からいちご、ラズベリー、ブルーベリー

【取扱店舗】ラトリエ グランブルー、パティスリー グランブルー、
産直市場 田舎んぼ、いいたて村の道の駅まてい館

【通信販売】Lesprit MAGARA (<https://www.lesprit-magara.com>)、
楽天、Amazon、Yahoo! ショッピング
※価格等については各ウェブサイトにてご確認ください。

ラトリエ グランブルー
住所：いわき市小名浜君ヶ塚 9-6
TEL：0246-54-8038

パティスリー グランブルー
住所：いわき市内郷御殿町 1-199
TEL：0246-26-7337

所在地は p.11 のマップを参照



編集後記

いよいよ本年も残すところわずかとなりました。

今月号の特集では「いわき農林事務所・水産事務所・水産海洋研究センター 2020年の7大ニュース！」をご紹介しました。今年は新型コロナウイルス感染症の拡大により大変な一年となりましたが、これまでご紹介してきたとおり様々な取組を行うことができました。皆さまのお力添えに職員一同、心より感謝申し上げます。それでは、良いお年をお迎えください！

(企画部 K)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース